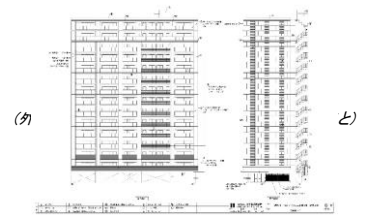


# CASBEE<sup>®</sup> あいち

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き 使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	オープンレジデンス安城	階数	地上15階
建設地	愛知県安城市朝日町562番9	構造	RC造
用途地域	商業地域	平均居住人員	294人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工時期	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年10月3日
敷地面積	1,186㎡	作成者	澤田勉
建築面積	560㎡	確認日	2023年10月3日
延床面積	6,155㎡	確認者	澤田勉



### 2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

**BEE = 1.1** ★★★★★

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

### 2-2 ライフサイクルCO<sub>2</sub>温暖化影響チャート

標準計算

①参照値	100%
②建築物の取組み	66%
③上記+②以外の	66%
④上記+	66%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです

### 2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

### 2-4 中項目の評価(バーチャート)

**Q のスコア = 2.8**

#### Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.3

音環境	3.4
温熱環境	3.1
光・視環境	3.3
空気質環境	2.5

#### Q2 サービス性能

Q2のスコア = 2.9

機能性	3.0
耐用性	2.8
対応性	2.8

#### Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.2

生物環境	1.0
まちなみ	3.0
地域性	2.5

**LR のスコア = 3.3**

#### LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.8

建物外皮の	4.0
自然エネ	3.0
設備システ	4.6
効率的	3.0

#### LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 2.7

水資源	3.4
非再生材料の使用削減	2.5
汚染物質回避	3.0

#### LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.2

地球温暖化への配慮	4.3
地域環境への配慮	2.5
周辺環境への配慮	3.0

### 3 重点項目

<h4>①地球温暖化への配慮</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">4.3</p>	<h4>③敷地内の緑化</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</td> <td>2.4 %</td> </tr> <tr> <td>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</td> <td>0.0 %</td> </tr> </table>	外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.4 %	建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %
外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)	2.4 %				
建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)	0.0 %				
<h4>②資源の有効活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">2.6</p>	<h4>④地域材の活用</h4> <p style="font-size: 2em; color: green;">1.0</p> <table border="1"> <tr> <td>〈外装材に使用した地域性のある材料〉</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉</td> <td>なし</td> </tr> </table>	〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし	〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし
〈外装材に使用した地域性のある材料〉	なし				
〈建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材〉	なし				

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮  
 LR-3 1 地球温暖化への配慮  
 ②資源の有効活用  
 Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性  
 LR-2 2 非再生性資源の使用削減  
 ③敷地内の緑化  
 Q-3 1 生物環境の保全と創出

外構緑化指数 =  $\frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$

建物緑化指数 =  $\frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建物によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$

みんなの環境活動を応援しています

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き  
オープンレジデンス安城

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版+あいち版手引き

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)\_AICHI

スコアシート		実施設計段階		独自基準		環境配慮設計の概要記入欄		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	重点項目	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	評価点	評価点	重み係数	全体	
<b>Q 建築物の環境品質</b>												2.8
<b>Q1 室内環境</b>												3.3
<b>1 音環境</b>												3.4
1.1 室内騒音レベル		0.1	4.0	0.15	3.3	3.3	1.00					
1.2 遮音		3.0	3.0	0.50		3.0	0.50					
1.2.1 開口部遮音性能		0.5	5.0	0.50		3.6	0.50					
1.2.2 1 開口部遮音性能	T-2を採用	-	5.0	1.00		5.0	0.30					
1.2.2 2 界壁遮音性能		-	3.0	-		3.0	0.30					
1.2.2 3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		-	3.0	-		3.0	0.20					
1.2.2 4 界床遮音性能(重量衝撃源)		-	3.0	-		3.0	0.20					
1.3 吸音		-	3.0	-		3.0	-					
<b>2 温熱環境</b>												3.1
2.1 室温制御		0.3	3.1	0.35	3.1	3.1	1.00					
2.1.1 室温		0.5	3.3	0.50	3.3	3.3	0.50					
2.1.2 1 室温		3.0	3.0	0.63		3.0	0.63					
2.1.2 2 外皮性能	断熱等性能等級4	3.0	4.0	0.38		4.0	0.38					
2.1.2 3 ゾーン別制御性		3.0	3.0	-		-	-					
2.2 湿度制御		3.0	3.0	0.20		3.0	0.20					
2.3 空調方式		3.0	3.0	0.30		3.0	0.30					
<b>3 光・視環境</b>												3.3
3.1 昼光利用		0.3	4.2	0.30	4.0	4.0	0.30					
3.1.1 1 昼光率	窓を大きく設けた	3.0	5.0	0.60		5.0	0.50					
3.1.1 2 方位別開口		3.0	3.0	0.40		3.0	0.30					
3.1.1 3 昼光利用設備		3.0	3.0	0.40		3.0	0.20					
3.2 グレア対策		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.30					
3.2.1 1 昼光制御		5.0	3.0	1.00		3.0	1.00					
3.3 照度		3.0	3.0	0.15		3.0	0.15					
3.4 照明制御		3.0	3.0	0.25		3.0	0.25					
<b>4 空気質環境</b>												3.5
4.1 発生源対策		0.2	3.0	0.25	3.6	3.6	1.00					
4.1.1 1 化学汚染物質	F☆☆☆☆を使用	0.6	3.0	0.60	4.0	4.0	0.63					
4.1.1 2 化学汚染物質		3.0	3.0	1.00		4.0	1.00					
4.2 換気		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.38					
4.2.1 1 換気量		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33					
4.2.1 2 自然換気性能		3.0	3.0	-		3.0	0.33					
4.2.1 3 取り入れ外気への配慮		3.0	3.0	0.50		3.0	0.33					
4.3 運用管理		-	-	-		-	-					
4.3.1 1 CO <sub>2</sub> の監視		3.0	3.0	-		-	-					
4.3.1 2 喫煙の制御		3.0	3.0	-		-	-					
<b>Q2 サービス性能</b>												2.9
<b>1 機能性</b>												3.0
1.1 機能性・使いやすさ		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	1.00					
1.1.1 1 広さ・収納性		0.4	3.0	0.40	3.0	3.0	0.60					
1.1.1 2 高度情報通信設備対応		3.0	3.0	-		3.0	-					
1.1.1 3 バリアフリー計画	独自	3.0	3.0	1.00		3.0	1.00					
1.2 心理性・快適性		0.3	3.0	0.30	3.0	3.0	0.40					
1.2.1 1 広さ感・景観 (天井高)		3.0	3.0	-		3.0	0.50					
1.2.1 2 リフレッシュスペース		3.0	3.0	-		-	-					
1.2.1 3 内装計画		3.0	3.0	1.00		3.0	0.50					
1.3 維持管理		0.3	3.0	0.30		-	-					
1.3.1 1 維持管理に配慮した設計		3.0	3.0	0.50		-	-					
1.3.1 2 維持管理用機能の確保		3.0	3.0	0.50		-	-					
<b>2 耐用性・信頼性</b>												2.8
2.1 耐震・免震・制震・制振		0.3	2.8	0.31		-	-					
2.1.1 1 耐震性(建物のこわれにくさ)		0.4	3.0	0.48		-	-					
2.1.1 2 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.80		-	-					
2.1.1 3 免震・制震・制振性能		3.0	3.0	0.20		-	-					
2.2 部品・部材の耐用年数		0.3	2.5	0.33		-	-					
2.2.1 1 躯体材料の耐用年数		-	3.0	0.23		-	-					
2.2.1 2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	②	-	2.0	0.23		-	-					
2.2.1 3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		-	3.0	0.09		-	-					
2.2.1 4 空調換気ダクトの更新必要間隔		-	3.0	0.08		-	-					
2.2.1 5 空調・給排水配管の更新必要間隔		-	3.0	0.15		-	-					
2.2.1 6 主要設備機器の更新必要間隔		-	2.0	0.23		-	-					
2.4 信頼性		0.1	3.0	0.19		-	-					
2.4.1 1 空調・換気設備		3.0	3.0	0.20		-	-					
2.4.1 2 給排水・衛生設備		3.0	3.0	0.20		-	-					
2.4.1 3 電気設備	②	3.0	3.0	0.20		-	-					
2.4.1 4 機械・配管支持方法		3.0	3.0	0.20		-	-					
2.4.1 5 通信・情報設備		3.0	3.0	0.20		-	-					

<b>3 対応性・更新性</b>					0.2	3.0	0.29	2.8	2.8	1.00	2.8
3.1 空間のゆとり					-	-	-	2.6	2.6	-	0.50
1 階高のゆとり					-	3.0	-	-	3.0	-	0.60
2 空間の形状・自由さ					3.0	3.0	-	-	2.0	-	0.40
3.2 荷重のゆとり					3.0	3.0	-	-	3.0	-	0.50
3.3 設備の更新性					1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
1 空調配管の更新性			②		-	3.0	0.17	-	-	-	-
2 給排水管の更新性					3.0	3.0	0.17	-	-	-	-
3 電気配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
4 通信配線の更新性					3.0	3.0	0.11	-	-	-	-
5 設備機器の更新性					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
6 バックアップスペースの確保					3.0	3.0	0.22	-	-	-	-
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>						-	0.30	-	-	-	2.2
1 生物環境の保全と創出			独自③		-	1.0	0.30	-	-	-	1.0
2 まちなみ・景観への配慮			独自④		-	3.0	0.40	-	-	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					0.3	2.5	0.30	-	-	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④		-	2.0	0.50	-	-	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上					-	3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>						-	-	-	-	-	3.3
<b>LR1 エネルギー</b>						-	0.40	-	-	-	3.8
1 建物外皮の熱負荷抑制				断熱等性能等級4	3.0	4.0	0.33	-	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17	-	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				BEI=0.87	3.0	4.6	0.33	-	-	-	4.6
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17	-	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	-	-	-
4.1 モニタリング					3.0	3.0	-	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					3.0	3.0	-	-	-	-	-
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	-	-
4.1 モニタリング					-	3.0	0.50	-	-	-	-
4.2 運用管理体制					-	3.0	0.50	-	-	-	-
<b>LR2 資源・マテリアル</b>						-	0.30	-	-	-	2.7
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	-	3.4
1.1 節水				節水便器、水栓を使用	3.0	4.0	0.40	-	-	-	-
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	-	-
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	1.00	-	-	-	-
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	3.0	-	-	-	-	-
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.5	0.63	-	-	-	2.5
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07	-	-	-	-
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	-	-
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	-	-
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	3.0	1.0	0.20	-	-	-	-
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	-	-
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自		3.0	3.0	0.24	-	-	-	-
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	-	-
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	-	-
1 消火剤					-	-	-	-	-	-	-
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	1.00	-	-	-	-
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	-	-
<b>LR3 敷地外環境</b>						-	0.30	-	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮			①	積極的な省エネルギー対策	-	4.3	0.33	-	-	-	4.3
2 地域環境への配慮					0.3	2.5	0.33	-	-	-	2.5
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	-	-
2.2 温熱環境悪化の改善					-	2.0	0.50	-	-	-	-
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25	-	-	-	-
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 交通負荷抑制			独自		-	3.0	0.25	-	-	-	-
4 廃棄物処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	-	-
3 周辺環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	-	-
2 振動			独自		-	-	-	-	-	-	-
3 悪臭					-	-	-	-	-	-	-
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	-	-
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 砂塵の抑制					-	3.0	-	-	-	-	-
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	-	-
3.3 光害の抑制					0.2	3.0	0.20	-	-	-	-
1 屋外照明及び室内照明のうち外に漏れる光への対策					-	3.0	0.70	-	-	-	-
2 屋外の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	-	-

重点項目(配慮項目)		評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>				<b>4.3</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.3	0.10	
<b>② 資源の有効活用</b>				<b>2.6</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	2.8	0.09	
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09	
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.5	0.19	
<b>③ 敷地内の緑化</b>				<b>1.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	外構緑化:2.4%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			(評価ポイント)	<b>1.0</b>
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-	なし
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-	なし

■重点項目スコア算出式

各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化

重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用  $\frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{重みの総和}}$

重点項目スコア=

④地域材の活用

重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

## ■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 オープンレジデンス安城

計画上の配慮事項	
総合	省エネルギー(断熱性能、LOW-Eガラス採用等)により環境に配慮した。
Q1 室内環境	開口部を大きく取り十分な採光を確保した。
Q2 サービス性能	住戸の階高2.8m以上とし室内高2.4mとしゆとりある住空間とした。
Q3 室外環境(敷地内)	周辺環境に配慮し住戸分以上の駐輪場を確保した。
LR1 エネルギー	共用部分の照明器具をLEDを使用し消費電力を抑えた。
LR2 資源・マテリアル	節水型便座や水栓を採用した。
LR3 敷地外環境	駐車、駐輪スペースを敷地内に確保した。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。